

様式1

令和5年度 学校評価表

学校教育目標		凜とした「元気・感動・温もり」のある生徒の育成													
a ミッション		学びを探究し、未来を“そうそう”する生徒の育成				a ビジョン		職員が笑顔で生徒の前に立てる学校 ○生徒が安心して学べ、確実に力を付けることができる学校 ○保護者や地域からも信頼され、任せてもらえる学校 ○教職員がやりがいと喜びをもち、笑顔で取り組める学校						尾道市立長江中学校	
評価計画						自己評価						学校関係者評価			改善計画
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
主体性・協働性を育む探究的な学習の推進	○学習内容の確実な定着及び活用 ・知的好奇心を喚起する授業実践 ・新たな価値観を見いだせる授業づくり	・各教員、「探究」「各教科」において、年1回以上の研究授業、1単元以上の単元開発の実施 ・小中連携教育の意義について理解し、積極的に各小中学校の研究授業に参加 ・小中の接続を意識し、9年間を見通した総合的な学習の時間の単元開発	①生徒アンケートの「授業では解決しようとする課題について、『なぜだろう』、『やってみよう』と思います。」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合（昨年度80%）	①85%	①81.5%	①84%	①98%	A	①年度当初に研究授業を行う時期を決めたことにより、時期の偏りもなく協議や指導ができたため、生徒の意欲を引き出し自ら探求しようとする姿勢を喚起する授業展開ができた。しかし、まだ教科間でのばらつきもある。 ②「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」に係る授業研究と各校の公開研究会に日程調整、時程調整を行い全教員で参加できるよう取り組んだ。土曜小中学校の公開研究会のときのみ、3年の進路相談と重なってしまい、3年部の教員の参加ができなかった。 ③キャリア研究部が主体となって「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」に取り組み、土堂小学校、長江小学校と連携して研究を進めた。長江中学校として3年間の研究の成果を授業公開を通して発信することができた。来年度は合併を見据え、久保中学校と連携しながら、この研究成果を基にリードしていく。	○	○先生の話を真剣に聞き、自分の考えを表現できるよう指導されていると思う。 ○これまでの3年間の素晴らしい取組を、次年度以降も引き続き、前向きに、新しいことにもチャレンジしながら進めていってほしい。 ○小中接続の取組については積極的に良かった。	①教科間での回答のばらつきをなくすためにも、日常的に空いている時間を使ってお互いの授業を参観し、教員間で助言し合いながら授業展開に工夫をしていく。 ②3年間の地域事業で培った小中のつながりを次年度以降にも活かして、児童生徒の探求する姿勢が小中つながるよう、お互いの研究授業に率先して参加していく。 ③3年間の地域事業によって系統性を整理した小中9年間の総合的な学習の時間を、さらに深め、発展させていくために、次年度以降も探究的な取り組みとなるよう単元開発を進める。			
			②各小学校（3校）の研究授業に参加する教員の割合	②100%	②－	②95%	②95%						○		
			③9年間を見通した総合的な学習の時間の授業公開（今年度3年目）	③11月に公開	③－	③11/14に実施	③100%								
人間力を高める教育実践	○「学びの風土づくり」三原則の徹底と深化による「長江プライド」の醸成と自己肯定感の向上	・生徒が主体的に企画する活動（挨拶運動や地域貢献活動等）への支援 ・生徒の主体的な活動に対する教師による肯定的評価の実施	①生徒アンケートの「自ら進んで挨拶をしている」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合（昨年度90%） ②教師アンケートの「自分は、生徒が自ら進んで挨拶をするよう、指導している」旨の問いに肯定的に回答している教師の割合（昨年度100%） ③生徒アンケートの「自分には良いところがある」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合（昨年度77%） ④生徒アンケートの「自分のよさは、まわりの人から認められていると思う」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合（昨年度88%）	①90% ②100% ③80% ④85%	①86.3% ②100% ③76.5% ④82.6%	①79.5% ②100% ③81% ④88%	①88% ②100% ③100% ④100%	A	①生徒アンケートの「自ら進んで挨拶をしている」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合87%であった。（2学期86.3%）また、「地域の方に会ったら、自分からあいさつをしている」では72%であった。日々の授業や行事等で、自分の役割を責任を持ってやりきらせる経験を積み重ねることで自信を持たせ、受け身ではなく自分から進んであいさつや行動ができるようになる。 ②教師アンケートの「自分は、生徒が自ら進んで挨拶をするよう、指導している」旨の問いに肯定的に回答している教員の割合は100%（2学期100%）であったが、実際に教員が「生徒が自ら進んで挨拶をしている」と感じる割合は、35%である。生徒の評価と解離がある。 ③生徒アンケートの「自分には良いところがある」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合は81%であった。（2学期76.5%） ④生徒アンケートの「自分のよさは、まわりの人から認められていると思う」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合は88%であった。（2学期82.6%）生徒が自ら「考え、判断し、行動する」という「自己決定の風」を様々な教育活動の中で仕組んでいき、自己認識を深めさせる。	○	○時間を守ったり、礼を正したりするといった人間力を高めていくことの大事さを、生徒達によく指導していると思う。 ○思春期ということもあり、生徒が自ら進んで挨拶をするというのは難しい面もあると思う。夢とか目標とか、身近に感じる物を目指すようになると、より自ら進んで挨拶するのではないかと。 ○高校との部活動や交通安全についての取組も行ってみてはどうか。	○生徒会活動を主とした特別活動、道徳、総合的な学習の時間等、全ての教育活動をととし、挨拶の意義、意味等について考えさせる場面設定を行う。 ○Hyper-QUI等調査結果をもとにした生徒や学級の状態の客観的・多面的な把握をする。 ○特別なことではなく、日々の授業、掃除、係、2分前席など、やりきる経験を積ませる。全校集会、学年集会等を計画的に実施し、生徒に肯定的評価ができる場を設定する。 ○自発的に活動できるよう、授業、部活動、行事等で「自己決定」ができる場面を設定し、やりきらせる。行事、キャリア教育、進路学習の力、キャリア人間関係を再確認し、自己と学級・学校や社会との関わりについて考えさせ、自己の良さ、集団への寄与について振り返らせることを重視した授業改善を図る。			
職員が笑顔で生徒の前に立てる職場環境	○働き方改革の推進（業務改善への志向を含む）	・主任・主事を中心とし、校内及び分掌・学年間で協働することで、円滑な業務推進を図る。	「学校における働き方改革アンケート」の項目『日々の業務の中で充実感を得られている』の問いに肯定的に回答している職員の割合（昨年度64.7%）	80%以上	約70%	約70%	約88%						B	○一学期より若干数値は高くなったが、目標の80%には届いていなかった。今年度は小中合同公開研究会を11月に開催し、参観者の皆様へ肯定的評価をいただいたことは、職員にとり大きな励みになった。しかし、その準備に各学年は多くの時間を費やしたことから、疲弊感を感じた職員は少なくない。○月に2回早期退校日は設定した。意識して退校することが定着しつつある。	○

【自己評価 評価】
A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。○：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。